

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

343号

2019年9月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

14年ぶりの韓統連8・15訪韓団 ～光化門広場で力強くアピール～

3・1独立運動100周年に続き韓統連は、8・15(光復節)にも代表団を派遣した。光化門広場で14日(前夜祭)、15日(本大会)で連帯挨拶をし、韓日民衆連帯を強くアピールした。

●前夜祭の星

ソウルで開催された結団式には、4月に発足した「韓統連の完全な名誉回復と帰国保障のための対策委員会」の崔炳模(チェ・ビョンモ)代表をはじめ主要なメンバーが駆け付けてくれた。林鍾仁(イム・ジョンイン)執行委員長から「韓統連への不当な弾圧に対して怒りをもって青瓦台(大統領府)に要請していき、必ず名誉回復を実現する」という報告に感謝とともに非常に勇気づけられた。夕食後、光化門広場に向かい、

「2019自主統一大会」に参加した。趙基峰(チョ・ギボン)韓統連愛知本部代表委員が連帯挨拶をし、大きな拍手を受けた。

継続して開催された「2019祖国統一促進大会」では、代表団が舞台上で紹介され、花束が贈呈され、団長の朴南仁(パク・ナミン)韓統連中央本部副議長が挨拶をした。キャンドル革命広場の光化門の舞台上上がり、紹介され、花束をもらい、大歓声で迎えられるとは感慨深いものがあり、空の星がにじんで見えた。

その後、祖国統一汎民族連合(汎民連)南側本部の歓迎会に招待された。汎民連は未だに「利敵団体」と規定され、メンバーには旅券が発給されていない。これからの闘いの決意の共有の乾杯が幾度となく繰り返され、宴は夜更けまで続いた。

●安部糾弾キャンドル文化祭に10万人

8月15日は朝から雨だった。午前にはソウル市庁前広場の「光復74周年日帝強制動員問題解決のための緊急討論集会」に参加し、強い雨の中、日本大使館までデモ行進し、抗議集会を開催。

昼食後、平和の少女像前での市民大会に参加、米国大使館までデモ行進し、午後3時から光化門広場の「8・15民族統一大会」に参加した。韓統連・韓青のメンバーも参加した「427人の民族大合唱」で幕を開けた統一大会で、朴副議長が連帯挨拶をし、歓声に迎えられた。午後6時から光化門広場で「8・1574周年歴史歪曲・経済侵略・平和脅威の安倍政権糾弾及び正義平和実現のための汎国民キャンドル文化祭」が開催された。幸い雨も上がり、

参加者は10万人に膨れ上がった。主催団体の「安部糾弾市民行動」は、7月20日に平和の少女像前で1500人のキャンドル文化祭でスタートしたが、その後、参加者が急激に増え続け、5回目を光化門広場に場所を変えて実施した。安倍糾弾のキャンドルは、今後より一層広がることが予想される。

参加者は10万人に膨れ上がった。主催団体の「安部糾弾市民行動」は、7月20日に平和の少女像前で1500人のキャンドル文化祭でスタートしたが、その後、参加者が急激に増え続け、5回目を光化門広場に場所を変えて実施した。安倍糾弾のキャンドルは、今後より一層広がることが予想される。

●第二の独立運動

今年は3・1独立運動の100周年の年になる。8・15の10万のキャンドルは安倍政権の歴史歪曲を糾弾し、冷戦と分断の象徴である1965年の韓日条約体制に「NO」を突き付けている。

2018年から始まった平和と統一の時代の真の韓日友好のための新しい闘いが始まっている。それを実感し、体感した2日間であった。(隆)



▲祖国統一促進大会で挨拶する朴南仁団長

【8・15韓統連訪韓団感想文】

再びソウルに訪問して

韓統連大阪本部 孫啓榮 (ソン・ゲヨン)

今回、光復74周年に際し、韓統連訪韓団の一員として、3・1節100周年に続いて再びソウルに行きました。明洞のホテルでの現地集合だったため、仁川空港から一人で電車を乗り継いで行かなければなりません。慣れない土地？ さしづめ地方から初めて東京に行ったような感じでしょうか。案の定、ソウル駅での乗り換え時に不覚にも迷子になってしまいました。もちろんハングル(韓国語)は読めるし、「地下鉄〇号線乗り場」を目指せばいいわけなんです、なんせ広い

駅構内、平日のせいか行き交う人たちも多く、立ち止まるわけにもいかず、流れに沿って歩いて行くうちに、とんでもないところに出てしまいました。

猛暑で蒸し暑い中、疲れ果てた私はコンビニを見つけ、冷たいコーヒーでも飲もうと思い、冷房の効いた店内に転がり込みました。そこでアイス

コーヒーを頼むことにしました。前回ソウルに来たのは3・1節100周年の時、まだ寒い時期だったので、ソウルで冷たいものを頼むのは生まれて初めての事でした。それで注文の際、アイスコーヒーはと言えばいいのかと考え、冷たいという意味の「차다(チャダ)」を使って「チャンコピーかな？」とも思いましたが、迷ったあげく、冷麺や冷蔵庫の「冷」という漢字を使って「넌コピー ハナジュセヨ」と言いました。すると私と同世代の男性従業員が「はい、アイスコーヒーね」と韓国語で返して来ました。そうアイスコーヒーは、そのままアイスコーヒーで良かったんですね。私の頬が赤く染まっていたのは、決して熱さだけのせいではなかったでしょう。

ともあれ集合時間に遅れてホテルに到着すると



▲韓国の知人と撮った記念写真(右側が孫啓榮氏)

既に誰もいなく、途方に暮れた私は、いたしかたなくチェックインした部屋に荷物を置いて、一人で最初の行動地である光化門に地下鉄で向かうことにしました。

これまた初めての駅から地理も土地勘もないまま、周りの視線も気にせず地図と路線図とにらめっこしながら、やっとのことで目的地に着くことができました。一人で広い会場内を歩き回りながら日本からのメンバーを探している最中、私は驚きとも、喜びとも言えない一種の感動がありました。

そこで目にした掲示物のスローガンや舞台での主張が、私たち韓統連が掲げるものと完全に一致していたことです。光化門広場に集まる顔も知らない数万人の集団に対し「ああ、同じ思いを持って、この時代をともに生きている人たちが、ここにはこんなにもいるんだな」と思い、私はその中に自然に溶け込むことが

できました。

今回のソウル訪問を通して感じたことは、私たちは日本の地で民族を掲げて運動をしているわけですが、やはりもっと頻繁に祖国を訪れ、国内で闘う人たちともっと交流を深めるとともに、先述のような日常的な生活行動も問題なく行えるようにする必要がありますと痛感しました。それは私個人の問題としてではなく、韓統連の旗と看板を背負うすべての仲間がそうあらねばなりません。そのためにも不当な「反国家団体」規定によるこれまた不当な旅券制限や渡航制限が一切なくならなければならず、そのうえで私たち韓統連の名誉回復を必ずや勝ち取らなければなりません。これからも最後までともに闘いましょう。

2019年度 韓青8・15訪韓団に参加して

韓青大阪府本部委員長 趙暎和(チヨ・ヨンファ)

韓青・学生協による8・15代表団は、金承民(キム・スンミン)韓青中央本部委員長を筆頭に12名で構成され、8月14日～16日を公式日程で参加した。



▲ソウル市内で行われた韓青訪韓団結団式

文在寅政権下では3回目となる8・15代表団であり、代表団としては実に7回目を数える今回の代表団。数多くの交流を重ねる中で、国内の青年団体(韓国青年連帯、6・15南側青年学生本部・青年民衆党他)ともより親しく、志を共有できる仲となり、今回も交流会を通してより連帯関係を強固にすることができた貴重な3日間だった。



▲青年学生統一文化祭での記念写真

何よりもいま国内では日本の安倍政権による経済報復、歴史歪曲主義に対する糾弾の声が広がり、この間もソウルでは光化門を中心に「N O安倍」のプラカードを掲げ、多くの市民がデモに参加した。特に、その先頭には青年学生の姿が多くみられ、統一新時代を背負う世代の結集力に希望を感じることができた。そして我々

在外同胞も、民族の主体として各運動の現場で歓迎を受け、より存在感を増すことができたのは、この間の代表団事業が大きな実を結んだ事の証だといえる。

祖国の青年学生とともに米国に対し「民族自主」を叫び、日本に対して「植民地支配の謝罪と賠償」を叫ぶこの瞬間、残念ながら韓米合同軍事演習は予定を覆すことなく実施された。政府主催の光復節行事では文大統領は慶祝辞において北側との経済協力、統一国家へのプロセスに言及したことに対し、北側の祖国平和統一委員会は談話を通じて「南朝鮮当局者とはこれ以上話すこともなく、再び向かい合うこともない」と一蹴した。



▲龍山駅前にある徴用工像前で解団式

私が原稿を書いている今日(8月18日)、金大中元大統領の逝去10周年の追悼行事が国内で行われており、ここでも文大統領は「平和と繁栄の韓半島」に談話を通じて言及したが、「わが民族同士」の原則にはほとんど触れなかった。

韓米同盟の枠組に固執する文政権の限界が露呈した今、今まで以上に私たち海外同胞も、民族の主体としてより大きく成長を遂げなければならない。そのことを痛感した代表団であった。



日韓平和連帯8・15訪韓団感想文

8月14日～16日まで日韓平和連帯訪韓団がソウルを訪問し、様々な行事に参加しました。今回、日韓平和連帯の訪韓団に初めて参加した方々に感想文を書いて頂きました。

韓国の民主主義にふれて

山下裕子

解放記念日、光復節のその日、光化門広場前で繰り広げられる劇、歌、映像、そして一人一人から語られる言葉を前にして思ったこと。私はここにいていいのだろうか、日本人の私はここで求めるものは何だろうか、求めていいのだろうかと困惑と緊張で胸がいっぱいでした。

日本に根深くある植民地主義を日本から変えていきたいと思っている、責めを受け、謝罪し、ゆるしを得たい。どうか同じ一人の人として、ここに座らせてほしいと思いつつながら、いつしか一緒に拳をあげてしまっていました。こういう心持でいいのか、今もよくわからないままです。

そして、同時にここに来れた喜びを感じていました。それは韓統連、日韓平和連帯のみなさんの長い運動の歴史があるからこそ。運動の厳しさ、険しさを知らない私でいいのだろうか、今、恥ずかしい気持ちがしています。ですが、無知な私を受け入れてくださるみなさんの懐の広さに甘え、ここから勉強したい、知ったことをまわりに伝えていきたいと思えます。

権力と闘うデモが私は好きです。非暴力で、一人ではなく仲間と一緒にストレートに思いを伝える場がほしいのです。光化門広場前は市民が権力と対峙する場でした。屈辱的で不当な扱いを受けたら怒る、ノーを言うのはあたりまえ、光化門広場前にはあたりまえがありました。民主主義ってこれなんだ！と体で感じました。

これからもともに歩みたい！心からそう思います。



▲光化門広場で記念写真を撮る

山下さん(右から2人目)と田島さん(右から3人目)

光復節、反日とは違ったよ

田島茂恵

8月15日が朝鮮半島の解放の日だということに思い至ってなかった私。これまで長い間ともに闘ってこられた方々の中に、参加できたことに心から感謝しています。

集会やデモでは若者、子どもの主体的な参加が目立ち、さらに音楽、踊り、音響設備、豊富なグッズ等お金のかかり方も日本とは規模が大きく違っていた。何より「子どもから大人まで、自分の主義主張を持っているってすごい、日本と全然状況が違う」と感じた。植民地支配、軍事政権などと闘って勝ち取ってきた歴史がこの雰囲気の原因なんじゃないかと思ひ、もしかしたら、日本が侵略された経験がない歴史も今の日本の状況に繋がっているのかもしれないと感じた。

「こんな時期に韓国行って大丈夫？」といろんな人に言われての参加。「反日」じゃなくて「反安倍政権」。でも、その安倍政権を選んでいるのは私たち自身。でも韓国の人誰も「あんたらの責任やろ！」とは言っていないように感じて、それが「反日じゃない」と言うことなのかも、と思った。

集会での日本からのスピーチに何度も出てきた「ともに闘いましょう！」というフレーズ。何と闘うのか、闘うとはどういうことなのかと考えながら歩いた。

「行ってきたよ、光復節。反日とは違ったよ」といって人に話すこと。今回出会えた人からの情報を大切に、知る機会に参加し、自分の主義主張を創っていくこと。それを他の誰かと話題にすること、まずは職場や身近なところで、私にできることから始めていこうと思う。

安倍政権に立ち向かう韓日市民団体の平和行動模索に向けた緊急討論会

8月15日、グローバルセンター(ソウル中区)で、金昌五(ム・チャンオ)副代表が発言

安倍首相は、2015年の韓日合意で「慰安婦」問題は完全に終わったと強弁していますが、私は安倍首相が「慰安婦」問題に関して謝罪した言葉を聞いたことがありません。2015年12月28日に行われた韓日外相合意を発表する共同記者会見で、岸田外務大臣が「安倍首相が謝罪と反省の気持ちを表明した」と発表しただけです。その直後、日本の国会で野党議員が安倍首相に国会の場で安倍首相が自分の口で謝罪の言葉を表明してほしいと要請しましたが、安倍首相は頑なにそれを拒否し、朴槿恵(パク・クネ)大統領に電話で謝罪したとのみ答弁しました。安倍首相の謝罪の言葉を聞いた「慰安婦」ハルモニ(おばあさん)は一人もいません。安倍首相の謝罪の言葉を聞いた日本人は一人もいません。安倍首相の謝罪の言葉を聞いた韓国人は、いや世界中で「慰安婦」問題に関する安倍首相の謝罪の言葉を聞いたのは朴槿恵ただひとり一人だけです。それにもかかわらず、安倍首相は「慰安婦」問題は完全に終わったと言っているのです。

そして徴用工問題に関して、安倍首相は、日韓請求権協定で解決済みとのみ繰り返し発言しています。徴用工問題に関して安倍首相が謝罪したことは一度もありません。にもかかわらず、徴用工問題は完全に終わった問題だと主張しているのです。なぜ安倍首相は、「慰安婦」ハルモニや徴用工ハラボジ(おじいさん)に謝罪しないのでしょうか。それは反省していないからです。反省どころか、あの戦争と侵略の時代を日本帝国主義の栄光の時代と考えており、その復活を画策しているからです。したがって、「慰安婦」問題と徴用工問題を正しく解決するための闘いは、日本軍国主義の復活を阻止する闘いでもあるのです。

反省と謝罪は似たような言葉と思われがちですが、この二つの言葉には決定的な違いがあります。

反省は一人でするものですが、謝罪には相手が必要です。加害者が被害者に対して行う行為が謝罪です。そして、謝罪はただ謝れば終わる問題ではありません。謝罪を受けた被害者が、その謝罪を心からの謝罪と認めて、赦(ゆる)しを与えた時に初めて謝罪は成立します。

「慰安婦」ハルモニも徴用工ハラボジも安倍首相から心からの謝罪を受けたことはありません。当然、「慰安婦」ハルモニも徴用工ハラボジも安倍首相に赦しを与えたことはありません。「慰安婦」問題も徴用工問題も絶対に終わった問題ではありません。私たちはこの揺るがない事実を多くの人々に知らせていかなければなりません。

謝罪と同じように合意にも相手が必要です。1965年、韓日請求権協定に合意したのは、朴正熙(パク・チョンヒ)です。それから丁度50年後の2015年に慰安婦問題に合意したのは、朴正熙の娘である朴槿恵です。朴正熙独裁政権の最後の後継者である朴槿恵政権が、徴用工問題の大法院判決を不当な介入で阻止し、韓日外相合意で「慰安婦」問題を強引に幕引きしようとしたのです。しかし、韓国国民は偉大なキャンドル革命により朴槿恵を監獄に送りました。こうして「慰安婦」問題と徴用工問題が再び表舞台に登場することになったのです。したがって、「慰安婦」問題と徴用工問題、そして植民地支配の過去を正しく清算する闘いは、キャンドル革命の命令でもあるのです。

「慰安婦」問題と徴用工問題に関して日本政府が心から謝罪して賠償するその日まで、植民地支配の歴史を教科書に記載することにより二度と過ちを繰り返さないことをすべての日本国民が世代を越えて共有するその日まで、戦争と侵略の時代に終止符を打ち、平和と統一の新しい時代を開くために、ともに闘っていきましょう。

▲過酷な労働環境について証言する元徴用工被害者



◆◆韓国ドラマ紹介◆◆

ピノキオ

韓国ドラマ「ピノキオ」は主演がイ・ジョンソク、ヒロインをパク・シネが演じているヒューマンドラマです。

消防士だった父を事故で失い、その後の間違った報道により、残された家族は世間から追いつめられ兄が留守の中、母親は弟キ・ハミョン（主人公）を花火に見に行こうと岸边へ連れ出し、その夜、海へ身投げします。母は亡くなり、ハミョンは島の住人チェ・ゴンピルに助けられ、一命を取りとめます。それからハミョンは、ゴンピルの亡き長男ダルポとして生きることとなります。



一方、両親の離婚によって父とともにゴンピルの家に住むことになったヒロインのチェ・イナは、同年の伯父タルポと住むこととなります。

イナは、ピノキオ症候群（架空の病）があり、嘘をつくとしゃっくりが出ます。ダルポは自分の身の上を明かすことなく、イナに好意を寄せていきますが、イナの母親は偏向報道によってダルポ家族を崩壊させた張本人でした。その後、ダル

ポとイナは報道記者となり、後はドラマを見てください。

このドラマは2014年の作品で、私が初めて全話（20話）を見たドラマです。それまで日本でも韓流ドラマブームがありましたが、実際に全話を見たことはありませんでした。しかし、このドラマを見て、韓国ドラマの完成度の高さに心を奪われました。

特に、ヒロインのイナのキャラクター設定、パク・シネの演技は秀逸です。イナの可愛らしさと、母親をめぐるやりとりは、私のお気に入りです。

この韓国ドラマには高娯楽性と穏やかな安心感がありました。韓国人がシナリオを書き、韓国人が演技し、韓国人の価値観によって物語が進行します。ここには韓国人嫌いも、韓国人差別もなく、韓国人愛があります。

今、韓国に対する雰囲気私が私に不安感を募らせ、このドラマで安心感を得るために引き込まれたのでは。日本のいく末が恐ろしくもある。（勝）

◆◆行事案内◆◆

<p style="text-align: center;">韓統連生野支部秋のシリーズ学習会 ウリナラ2000ロマン</p> <p>第1回 ウリナラ誕生史～東方に栄えた、朝の鮮やかな国 日 時：9月15日（日）午前11時～ 場 所：韓統連生野支部 大阪市生野区勝山南4-13 講 師：金昌範（キム・チャンボム） 韓統連生野支部代表委員 参加費：会員300円 一般500円 問合せ：090-4495-3863（金）</p>	<p style="text-align: center;">ピョンヤン宣言から17年 日朝国交正常化の早期実現を求める大阪集会</p> <p>日 時：9月20日（金）午後6時30分～ 場 所：エルおおさか （京阪・地下鉄天満橋駅下車徒歩7分） 内 容：講演「第3回朝米首脳会談と 南北・日朝関係」 講師：廉文成（リョム・ムソク） 朝鮮大学校外国語学部准教授 資料代：1000円 主 催：日朝市民連帯・大阪 090-3272-1542</p>
--	---

編集後記

今号は、8・15訪韓団特集号になりました。報告、感想文などを書いて頂いた方々、カムサハムニダ（感謝します）。

（ソン）